

# 施策評価シート (評価対象年度：平成30年度)

## 1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	4 広域観光の推進	② 施策番号	3412
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	3 産業の活力が増し、賑わいと交流が生まれるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	4 豊かな地域資源を有効に活かし、さまざまな人々が行き交う観光・交流のまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	1 観光機能・体制の充実		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
市民生活環境部	産業観光課		

## 2. 施策の現状把握

### [1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	関係市町村
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	域外の観光客、とりわけ閑空のインバウンドを取り込むため、広域の地域資源の魅力をも有机的に結び付けて、関係市町で連携して効果的なPR活動を展開し幅広い集客を図っていく。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	国では、観光立国の実現に向けて、観光庁が訪日外国人旅行者の目標を2020年度は4000万人、2030年度には6000万人と上方修正した目標を掲げており、今後、その実現に向けて地方と連携しつつ今まで以上に注力するものと思われる。

### [2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 泉南市における休日滞在人口 計算式:	人	本市総合戦略において、地域経済分析システム(Resas)における本市休日滞在人口率を数値目標として掲げているため。
② 計算式:		
③ 計算式:		

指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考	
① 泉南市における休日滞在人口	人	目標値	160,000	160,000	160,000	160,000	160,000	地域経済分析システムを活用
		実績値	130,000	130,000	130,000	—	—	
		達成率	81.3%	81.3%	81.3%			
②		目標値						
		実績値						
		達成率						
③		目標値						
		実績値						
		達成率						

### [3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化	
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価		今後の方針
1	超広域連携観光圏創出事業	泉南市における休日滞在人口	人	130,000	130,000	—	3,387	3,016	2,983	A	ア	◎
2	観光振興事業	泉南市における休日滞在人口	人	130,000	130,000	—	3,387	3,016	2,983	A	ウ	○
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	2						6,774	6,032	5,966			

### 3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのよう貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	互いの地域の弱みを補完し、強みを強化する広域連携事業は、本市だけではなく閑空周辺地域全体の交流人口の増加、ひいては地域全体の魅力の向上に寄与する。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	本市における交流人口は、ここ数年変化しておらず、活況を呈する関西国際空港のインパウンドを的確に取り込めていない。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	観光事業の実施主体は、市民(観光協会、事業者等)であるが、広域連携についてはまずは行政が先鞭をつける必要がある。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	国の観光立国に向けた取組に沿った事業を進めるに際し、その目的・規模に応じて市町村と連携体制を構築する必要がある。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	観光施策については、本市単独で魅力的なコンテンツを展開していくことは困難であり、旅行者のニーズを把握し嗜好へ訴えていくためには、広域的な連携を進めていくことは必須。とりわけ「聖地・熊野」をキーワードとした連携は重点化すべき。

### 4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	多様化しつつある旅行者のニーズや嗜好を広く捉え、閑空のインパウンドを的確に取り込むためには、広域連携のよる事業を推進すべきである。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

### 5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	それぞれの広域連携の特長に沿って、泉州地域の積極的な情報発信に取り組む。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	それぞれの広域連携の特長に沿って、泉州地域の積極的な情報発信に取り組む。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	それぞれの広域連携の特長に沿って、泉州地域の積極的な情報発信に取り組む。

### 6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	成果指標である休日滞在人口は現状維持の横ばいの状況である。 行政による広域連携の取組により、民間団体や事業者における広域観光の取組や展開の進展に期待する。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある